

訪問看護ステーション

デューン那須塩原

那須塩原市方京一丁目十番六ファミーユ一階C号室

施設アピール

こころを込めて、こころのケアをモットーに、精神科看護を必要としている方へ支援させていただきます。精神疾患をお持ちの方や心のケアを必要とされている皆様に、看護師や精神保健福祉士などの有資格者が、直接ご自宅や入所されている施設にお伺いして、相談を受けたり、助言・援助などトータルサポートをさせて頂いております。



手作りの小物たちが、
優しくお出迎えをしてくれます
(チラッと厄除けの黄ブナがみえますね!)

施設の役割や特徴

利用者様にとって地域と医療の架け橋になり、再入院を減らすことと思っています。

地域社会における在宅医療サービを通して、安心・安全、快適な生活環境を創造し、人々のライフプランに貢献していくことと
思っています。

また、いまだに偏見や生きづらさを背負っている精神疾患に特化した訪問看護の提供をしています。

どのような方が利用されているの

- ◆病気に対して不安を抱えている
- ◆日常生活への様々な不安を抱えている
- ◆生活リズムが整わない
- ◆薬がきちんと飲めない
- ◆外来通院が途絶えがちになってしまふ
- ◆症状に左右されて生活に支障をきたしている
- ◆人と話したり、お付き合いがうまくできない
- ◆家族との関りが分からない
- ◆病気に ついて 家族にも理解して欲しい



利用者保険割合

介護保険：2割
医療保険：8割

所長 小林幸子様

- ◆病気と向き合いながら就労したい

よきアドバイスをするのではなく
よき理解者になることを
心掛けています

心掛けています

連携している主な医療機関

県内の特に、宇都宮圏域以北の精神疾患専門病院との連携が主で、
県立岡本台病院、烏山台病院、佐藤病院、室井病院、見川医院などです。他に、近隣のクリニックからの依頼もあります。

一番近くにある那須こころのクリニックの石川先生との連携は、今後多くの方の在宅生活支援につながるものと期待しているところです。

統合失調症、双極性障害、不安障害、適応障害、アルコール依存、薬物依存など、精神疾患全般、年齢を問わず、ご支援させていただきます。

ケアマネジャーとの連携

私たちの訪問看護ステーションは、心の問題や精神疾患を抱える皆さんと、そのご家族の未来を希望につなげます。
そのためにも精神保健福祉士（PSW）を配置しています。看護師と同様に、どんな相談でも構いません。まずはお気軽にお電話ください。

デューンの精神保健福祉士の仕事

—— 導入前から ——

引きこもりや対人緊張の強さなど、ご利用者様の状態によって訪問看護の導入がなかなか進まないケースについても、導入前から粘り強く関わらせていただき、訪問看護やその他のサービスに繋がります。



この笑顔と元気が、
地域を明るくします。



事務所の中 ホワイトボードの予定表がカラフルです

者様との契約になるため、ご利用者様に対してのみの支援が原則ですが、デューンのPSWは枠にとらわれることなく、ご家族様への支援・環境への働きかけを行い、包括的にご利用者様をサポートします。

地域のケアマネさん！

その他のご相談にも積極的に対応させていただきます。

「こんな相談しちゃ

いけないかな？」と悩む前に、まずはお電話ください。

「デューン」のPSWは、枠にとらわれることなく、支援します。

訪問看護師に

お気軽にお声かけ
ください

心に残った事例

八〇歳代ご夫婦で二人暮らしの方でした。奥様の訪問看護に関わっていました。

八五歳のご主人が末期の肺がんとなり、奥様をおいて自分が逝くことにとても不安を感じておられました。

ある日の訪問時に、奥様と訪問看護師の談笑をご主人さまが見ていて、このように訪問看護師が来てくれるのであれば、「これなら安心して逝ける。」と思ったのでしようか、それから程なくしてご

主人様は亡くなりました。残された奥様は、私たちの訪問看護の継続を希望され、大きな精神の崩れもなく過ごされています。私たちは、引き続き一人暮らしになってしまった奥様に、ご主人様の気持ちを大切に、寄り添いながら支援しています。

人は誰でも、もしもの時が来ます。そのもしもの時のために、前もって考え、繰り返し話し合い、共有することが大切であると思います。

もしバナゲームって
知ってますか？

ここ数年で、「終活」や「アドバンス・ケア・プランニング」という言葉が浸透し、死や人生の最終段階についてあらかじめ考える習慣が芽生えてきています。しかし、自分の最期についてじっくり考え、周囲に意思を共有している人はまだ少ないのではないのでしょうか。

もっと気軽に死について対話することができないか。そんな思いで医師たちが作ったカードゲームが、「もしバナゲーム」なのです。

このゲームは、「自分がもし治療困難な病に罹り、余命半年から1年であるとしたら」という設定のもとにおこなわれます。ゲームを通して、その時自分はどうなケアを望むのか、誰に寄り添われたいかなどを考え、周囲に共有するのです。一度実際にやってみてはいかがでしょうか。

— すき間の支援 —

退院するにあたって転居を余儀なくされ、おひとりでは転居にかかる手続きが難しいご利用者様について、転出・転入の手続きや各種住所変更手続き、生活保護の申請手続きなどを、市役所などに同行して一緒にお手伝いをします。

— 自己実現のために —

病状の安定だけでなく、その先にある「自分らしく生きることに」向けてご利用者様のご希望に沿ったサービスなどを紹介し、一緒に見学や同行をしながら社会資源に繋いでいきます。

— 家庭環境に —

通常の訪問看護の場合、ご利用



頑張れ600！！ 愛称デューン号
この街のどこかを今日も走っています